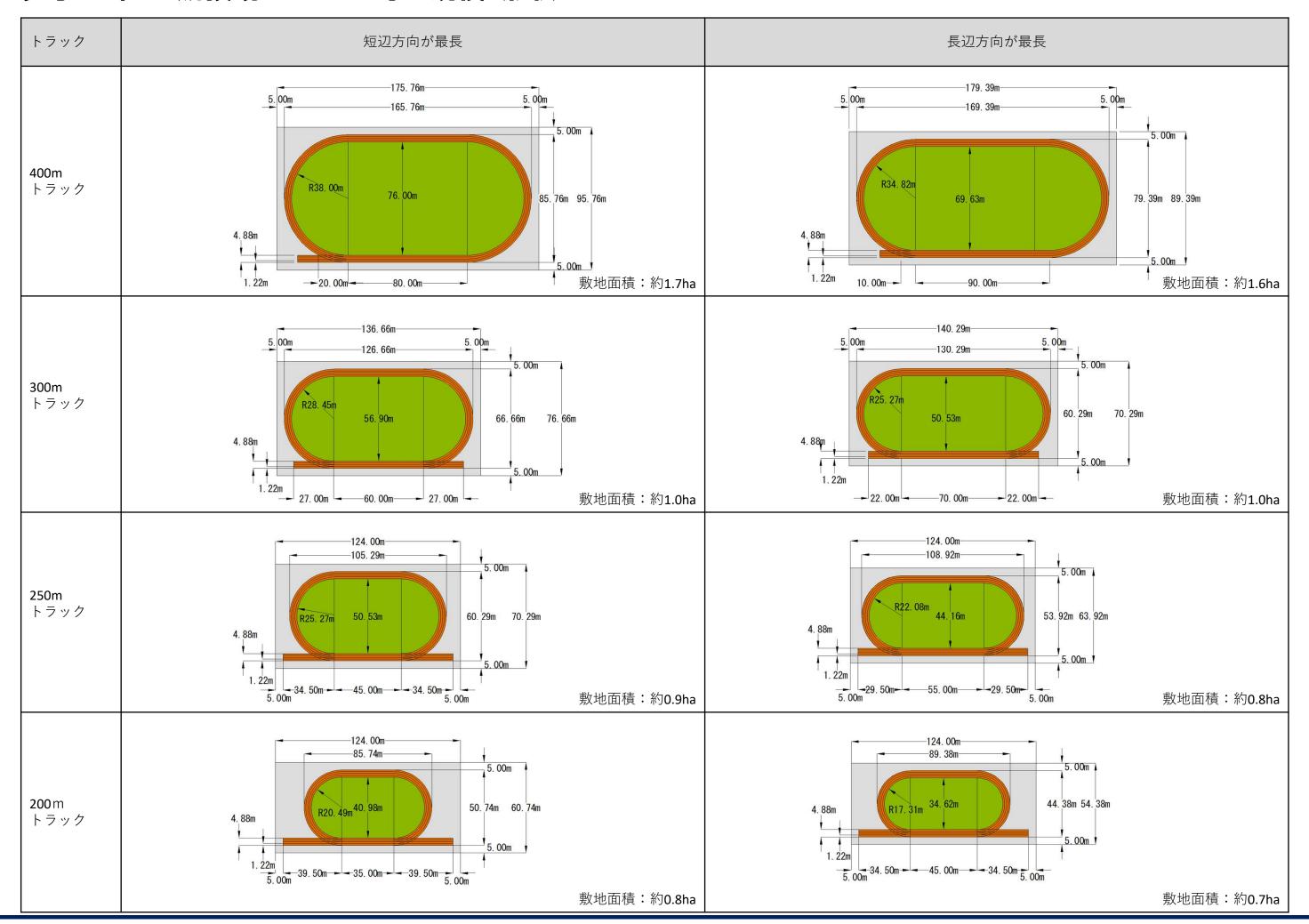
資料1

	·····································	回答
南委員 (長崎市営松山平和 運動公園を守る会)	• 50mプールを整備する際には長大な柱間となるため、50mプールの上部に施設などを配置するのは難しいと記載されているが、こうした施設の上層部に別な施設を整備した例はあるのか確認したい。	• 全国の50mプール(82箇所)を調査した結果、50mプール(10レーン、観客席あり)の仕様で上部空間を利活用している事例はなかった。
	• 長崎游泳協会からの要望は出ていないのか。	長崎游泳協会から直接要望はあっていないが、長崎市水泳連盟の加盟団体であるため、その意見に包括されている。
	• 市が実施した陸上競技場における400mトラックの利用者数の計測方法を教えてほしい。	 400mトラックの利用者を直接カウントしたもの。 フィールドや外周路と併用する方もいるが、1度でも400mトラックを利用した方はカウントしている。
	• 公園広場利用者数は、600m外周路、芝生広場、400mトラックの利用者合計としているが、芝生広場の中にトラック内側のフィールドも含めているのか教えていただきたい。	・ 公園広場利用者数は、トラック内側のフィールドの利用者も含んでいる。
	 「長崎市立地適正化計画(H30.4策定)」における「スポーツ施設などの再配置の留意点等」で、「平和公園(ラグビー・サッカー場、庭球場等)」との記載があるが、そこに陸上競技場は含まれているという理解でよいのか。 市民総合プールが平和公園に含まれるという理解をしていたが、公園外になっているのかということを確認したい。 	 陸上競技場は「平和公園(ラグビー・サッカー場、庭球場等)」(広域利用施設)には含まれていないが、同じ誘導施設として、「主に特定の地域内の市民が利用する施設」に位置付けられている。 また、市民総合プールも平和公園内の施設である。
	 次回の再検討部会で表明したいことがある。 すべての関係者が100%納得できる内容は難しいかもしれないが、概ね納得できるように、忌憚なく意見交換したい。 	 第1回再検討部会では、長崎南北幹線道路の計画ルートを前提にスポーツ施設の再配置に特化した議論を行っていくことを確認し、第2回再検討部会では、スポーツ施設の再配置において留意すべき点や今後の検討の進め方、抽出の観点、再配置のパターン、評価の観点について確認し、ご了承いただいたところである。 第3回再検討部会でも、スポーツ施設の再配置パターンについて、意見交換を行うこととしているため、その際にご発言いただきたい。

	意見	対応
田中委員 (長崎游泳協会)	 市民総合プールの再配置先は、陸上競技場以外に中部下水処理場跡地か長崎交通公園しかないと思うが、中部下水処理場跡地は乗降客数の多い駅に近い場所であり、長崎交通公園は最寄りの電停から4~5回信号を渡り、25~30分の所要時間をかけて歩かなくてはならない場所であるため、子どもの立場を考えると難しい。 市民総合プールは、陸上競技場の現在の利用者と比較すると、交通弱者(小学生、身障者、高齢者など)の利用が多い。 	 公共交通機関のアクセス性の評価は、電停やバス停からの距離を入れて比較検討する。
	 2階建ての50mプールは存在しないということであるが、25mプールの2階建ては存在している。知恵と新しい技術を 絞ってプールの敷地を縮小して、子どもたちの陸上をやるスペースを確保してほしい。 プールを陸上競技場に再配置するという前提で陸上のニーズをいかに取り込むかということを考えられるとよい。 	 全国の50mプール(82箇所)を調査した結果、50mプール(10レーン、観客席あり)の仕様で上部空間を利活用している事例はなかった。 仮にプールを陸上競技場に配置する場合で、陸上競技場を平和公園内(西地区)に移転するパターン3は、限られたスペースでどの規模の練習用トラックが配置できるか評価する。
	長崎市北部の市街地には芝生広場がない。幼児や園児が走り回れ、市民の憩いの場となるスペースが取れるようにしてほしい。	 再検討部会や検討委員会での議論を踏まえながら、より市民に開かれ、交流拠点として付加価値の高い公園となるよう検討していきたい。
村木委員 (長崎国際観光コン ベンション協会)	・ 市民総合プールを陸上競技場に再配置し、陸上競技場の規模や形態を変えて現地に配置するパターンも入れるべきでは。	 市民総合プールと陸上競技場(練習用トラック)を平和公園内に再配置するパターン3を検討する。
	 400mトラックは、何m幅のトラックが何レーン必要で、何ヘクタール必要になるのか。 走り幅飛びなどの別の競技も含めた広さや最低限のレーン数を一度定義づけた上で、陸上競技場という呼び方をして議論をしないと、曖昧なまま進んでいるのではないかと思う。 	
山川委員 (長崎市陸上競技協 会)	 陸上競技は、試合で400mトラックを利用しているので、それを残してもらえるとありがたい。 大会は、長崎県立総合運動公園(諫早市)か長崎市総合運動公園(柿泊町)の陸上競技場で開催されているため、練習には4レーン程度あれば十分練習できる。直線だけでなく、カーブがあることが望ましい。 	 陸上のレーン数は、4レーンと仮定する。 陸上のトラックは再配置候補地の規模形状に合わせて、第4種の規格にある400m、300m、250m、200mが入るかどうかを評価する。(P5「参考 陸上競技場のトラック等の規模・形状」を参照) 舗装などの整備内容については、再配置先の決定後に検討する。
荒木委員 (長崎市水泳連盟)	 水泳は公認大会が50mプールで行われるものの、練習環境は常に25mプールで行っている。 パターン4~6について、陸上競技場の距離が短くなることや場所が変わることを許容したときに、雨天の後全く使えないクレイ舗装ではなく、全天候型トラックや一部屋内の100mレーンをつくることができると思われる。 	・ 開交なのでが正層に当合については、行即直元のが人に反になる。
	 施設利用者は、正確なものとそうでないものがあり、同じテーブルで議論するのは難しいと思われる。市、各委員はその 点を考慮した上で検討した方がよい。 	• 市民総合プールは有料施設のため正確な入場者数を把握できるが、 陸上の利用者は把握できないため、数日間調査を行い、おおよそどれ くらいの利用者が利用しているか推計結果をお示しした。

	意見	対応
片山委員 (長崎大学)	 「現状と概ね同程度の公共交通アクセス性を有している場所」とすると、路面電車沿いの敷地となり、絞られてしまう。 評価の観点でも公共交通機関でのアクセスが容易であるという評価項目があるため、抽出の段階ではアクセス性が同程度ということを緩く考え、後の評価で検討すべきではないか。 	 候補地については、対象範囲を広げ、「電停から概ね800mの範囲※」から抽出する。 ※「長崎市地域公共交通計画」の「鉄道駅の徒歩圏」の定義より 公共交通機関のアクセス性の評価は、電停やバス停からの距離を入れて比較検討する。
渡辺部会長 (長崎大学)	 単に事業費を出すだけでなく、事業費が市民の財政にどう影響するのかという観点で組み替えて整理すると、長崎市の 持続可能性という観点からも評価できる。 	
智多委員 (長崎市レクリエー ション協議会)	・ 実際は経費の問題が最後に来ると思う。パターンごとの経費に関する説明もどこかの時点で行ってほしい。	• 費用については、再配置パターンの比較検討を行う中で整理する。
松本委員 (長崎市PTA連合 会)	・ 再配置パターンを検討するうえで、費用を考慮する必要があるのであれば、そのための資料がほしい。	
川添委員 (長崎商工会議所)	 再配置先のパターンとして、具体的な競技施設名が出ると、その競技に関わっている人が見た際に驚くと思われるため、 ラグビー・サッカー場は「その他候補地」の中に入れておけばよいのではないか。 	 市民総合プールをラグビー・サッカー場に再配置するパターンについては、資料2で説明する。
	・ どちらの競技もできる限り取り残されず、部活動を頑張っている子供たちを裏切らない結論をお願いしたい。	• 再検討部会や検討委員会での議論を踏まえ、市民総合プールと陸上 練習場の再配置先や機能について、方針を示すこととしたい。

- 参考 - 陸上競技場のトラック等の規模・形状



- 参考 - 各種トラックの整備事例(400m・300m・250m・200mのトラック)







